

区民意識・意向調査 報告書（案）における委員からの意見・質問一覧

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.03	<p>1 調査の目的 「本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが…」→「本調査は、世代や障害の有無を問わず誰もが…」</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、「本調査は、世代や障害の有無を問わず誰もが…」に修正いたします。</p>
P.09	<p>(1) 調査結果から見られる区の状況 全体的にはその通りかと思う。 町会・自治会の担ってきた地域活動は、安全安心に寄与する活動であったり、歴史の継承する活動であったり、ボランティア活動が評価されていないように思う。 関心ある活動があれば参加すると多くの人が答えているが、提案する人が少ないのか、自分がやりたい活動を提案して地域に貢献する方向に向いてほしいと感じる。</p> <p>(2) 課題 20代の若い世代へ働きかけが必要というのはその通りだが、何に興味を持っているのか、ニーズがどこにあるのか、今後掘り下げる質問が必要だと思う。</p> <p>○くらし この5行は、今回の報告書の中心になると思います。できれば、ポイントを大きくし、注目を引きやすい体裁にするなど工夫していただきたいと思っています。</p> <p>(2) 課題 「支援体制のPRの充実・強化」とありますが、「支援体制のさらなる充実（ワンストップ窓口、行政からの個別な働きかけ）とPRの強化」がよいかと思っています。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 地域活動に対する興味・関心の低下は、深刻な課題だと認識しております。 ご指摘いただいたとおり、どのような活動であれば区民の方に関心をもっていただけるのか、また、若い世代にはどのような働きかけが必要なのか、さらなるニーズ把握が必要だと考えております。次年度開催のワークショップにて引き続きテーマとして取り上げ、実態把握に努めてまいります。 なお、本調査結果とワークショップでいただいたご意見は、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 調査結果から見えた現状と課題について整理した本ページ全体が、本調査報告書における最も重要なページであると考えております。特出すべき点が視覚的に分かりやすくなるよう、見せ方を工夫いたします。</p> <p>ご提案いただいた内容を踏まえ、「支援体制のさらなる充実とPRの強化（包括的な相談支援体制の整備、ICT等の活用）」に修正いたします。</p>

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.13	<p>(8) グラフの色分け (7) の住居の種類と関連付けて考えると、高収入は一戸建てと同じ色のほうが分かりやすい。今回の調査で、低収入世帯が多いことが事実として把握できたことを視覚に訴えるには、色の濃いものを低収入にあてる必要があると思う。</p>	<p>事務局で検討させていただいた結果、色分けについては、恣意的な感情が入らないよう、報告書全体を統一した順の色分けとさせていただきます。</p>
P.17	<p>育児と介護の両方をしている（ダブルケア）の人が収入が少ないと訴えている64.7%という圧倒的な数字に着目したい。</p>	<p>ご指摘いただいた内容を踏まえ、特出すべき箇所については、視覚的に分かりやすいよう見せ方を工夫いたします。</p>
P.18	<p>この色分けでも、「不明」がなぜ濃い色になっているのか。「仕事をしていたが離職した」という人たちに焦点が当たるような色分けをしてほしい。ちなみに、P15から不明・無回答が濃い色になっている。P13までと変えた理由は何かあるのだろうか。とてもわかりにくくなる。他のページもこの観点で見直していただきたい。</p>	<p>ご指摘いただいた内容を踏まえ、特出すべき箇所については、視覚的に分かりやすいよう見せ方を工夫いたします。なお、色分けについては、報告書全体で統一した順の色分けとさせていただきます。</p>

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.21	ひきこもり世帯が推計5,000件には驚いた。民生委員やCSWなどがどれほど状況把握しているのか知りたい。	<p>本調査は、初めて直接区民の方を対象にしたひきこもりに関する調査となっており、区としましても、これまでの想定を大きく上回る結果となったと受け止めています。本調査結果は、庁内関係課と共有するとともに、今後の区の方向性を判断する材料としたいと考えております。</p> <p>なお、民生委員は令和4年夏に実施した調査では49件把握しています。CSWは令和4年度中に地域からの情報をもとに、30人に延べ618回の支援をしています。</p>
P.24	当事者向け相談が求められているのは明らかだが、例えば～なことについて、という事例のようなものを提示してもらえるとわかりやすくなる。(制度やしぐみを教えてもらうことはあったが、具体的に経験を話し合う場があればよい、などの声)	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>本調査では、具体的にどのようなサービスを受けたいか（受けたかったか）までは伺っていないため、ご提案いただいたような事例の提示は難しい状況です。</p> <p>ひきこもり状態にある方が求めるサービスについては、引き続きニーズの把握に努めてまいります。</p>
P.25	「特にサービスは受けていない」が63.8%とあるが、知らないから受けていないのか。	<p>本調査では、「特にサービスを受けていない」と回答した方に対し、その理由までは伺っていないため、調査結果から理由を把握するのは難しい状況です。</p> <p>しかしながら、ご指摘いただいたとおり、ひきこもりに関するサービスの認知度が低いことから、支援を必要とする方に支援が行き届いていない可能性もございますので、引き続き周知徹底を図っていきたいと思います。</p>

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.29	「苦しい」、「やや苦しい」に濃い色をあて、「不明」を白にすると、全く印象の異なるグラフになる。苦しい人に焦点が当たるように。	ご指摘いただいた内容を踏まえ、特出すべき箇所については、視覚的に分かりやすいよう見せ方を工夫いたします。なお、色分けについては、報告書全体で統一した順の色分けとさせていただきます。
P.33	「気軽に集まれる場所がない」という声は多いと思う。区民ひろばなどは、あらかじめ登録グループに加入しなければならない、気軽に相談していれば防げること、助かることが多いと思われるので、単発の集まりなど、区民ひろばなどの活用方法の検討が必要と思われる。	貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 いただいたご意見は、庁内関係課と共有するとともに、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。
P.40	町会や自治会の存在意義が薄れている。住民相互の協力活動に期待していないという回答からもそれがわかる。 町会に属している方々も高齢者ばかりで、何をやっているのか外から見ても分かりづらい。改革が必要と感じた。	貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 いただいたご意見は、庁内関係課と共有するとともに、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。
P.40	従来の町会や自治会は高齢の住民中心で、緑地整備や祭礼など一定の役割は残るものの、生活の中に入り込んだ相談機関としては機能しない。 人々が求めているのは、小規模な仲間での集まりで、問題を共有し、励まし合える場と言える。33ページに指摘したが、そのための場所づくりが急務である。町会や自治会への支援は現状維持でよいと思うが、新たに小規模な集まりに対しても支援できる柔軟な制度が求められていると思う。	貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 ご指摘いただいた、身近な地域の活動場所づくりや地域の支え合い活動の発掘・育成につきましては、現行の計画でも取り組み方針として位置づけているところです。引き続き次期計画にも盛り込み、取り組みを進めてまいります。

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.41	<p>「地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから」と回答した方が前回と比べて増えていることから、今後いろいろな面で共助が難しいと考えられる。</p> <p>共助は限界があり、もっと公助を進める必要があると思われる。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>本調査結果から、共助を推進していくことの難しさが窺える結果となりました。区といたしましては、普段の生活から住民同士が支え合い、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的なコミュニティ、地域や社会を創ることを推進しています。</p> <p>次年度開催のワークショップでも引き続き同テーマを取り上げ、さらなる状況把握に努めていくとともに、地域共生社会の実現に向け、区民の皆様にご協力をお願いしたいと思います。</p>
P.43	<p>「特に何もしていない」が65.1%とあることが現状の地域貢献等に無関心さを表しているように思う。</p>	<p>問10（P.43）で「特に何もしていない」と回答した方に対し、問10-1（P.44）でその理由を伺ったところ、6割弱の方が「困りごとを抱えている方がいるかわからない」と回答しています。これは地域付き合いの希薄さが一つの要因であると考えられます。次年度開催予定のワークショップでさらなる実態把握を行い、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.44	<p>助けを求めている人がいるのかわからない、というのは個人情報保護法による弊害もあると思われる。法律の壁を越えて、助けを求めたり、申し出ることが気軽にできるよう、条例を制定することも視野に入れてよいのではないか。P46にはこのようなことも踏み込んで書いてもよいと思う。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 おっしゃるとおり、支援が必要な人が気軽に助けを求められるような体制を構築することは喫緊の課題であり、災害時において重要な視点であると認識しております。 本区では、現在、災害時要援護者の名簿作成および名簿の有効活用方法、支援体制の構築などについて、部局横断体制で検討を進めております。 P46の記載内容については、再度検討のうえ、必要に応じ修正させていただきます。</p>
P.51	<p>「町会・自治会の活動」、「防災活動や災害時支援活動」への参加が極端に減り、「特に参加してみようとは思わない」の回答が増えていることは、今後、災害時の場合はまだしも、日常の地域活動の共助が難しいと考えられる。</p> <p>「参加してみようとは思わない」という項目が前回の倍以上に増えて、一番多くなっている。これは重大な事実であり、この変化の原因を考える必要がある。生活が苦しく、時間的に余裕がない人が増えている。また、ボランティア活動に助け合いの意義が見いだせなくなっているのかも知れない。防災活動と町会・自治体活動が激減しているのも裏返しのことかも知れない。その活動の成果が目に見える形であればモチベーションに繋がるのだろうが、儀礼的で、内実が伴わないものや、規制や参加要件のハードルが高いと意欲は削がれる。区全体で、お互いを尊重し、助け合おうという意識を醸成していく必要があると思う。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 今回の調査から、地域住民のつながりの希薄さがますます加速していることを改めて実感いたしました。本調査結果は今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 ご指摘いただいたとおり、地域共生社会の実現には、区全体で、お互いを尊重し、助け合おうという意識を醸成していくことが重要であると考えているところです。 今回の調査結果を真摯に受けとめ、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.53	P51で指摘したことが、ご意見として出されているので、すぐに区政に反映していただきたい。	貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 本調査結果は今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。
P.55	圏域ごとに分析したものと地域特性がわかり、地域包括ケアシステムを進めるうえで参考になると思う。	貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 次年度は圏域ごとにワークショップを開催することで、本調査以上に地域特性を把握できると考えております。本調査結果とワークショップでいただいたご意見は、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。
P.73	<p>区の相談拠点等の周知が足りないことが明らかになった。区民の税金でつくったものが知られないままであるのは、納税者に失礼なことである。</p> <p>細分化された機関や窓口であることが相談しづらさに繋がっている可能性があるため、どこに行っても必ず問題解決に繋がってもらえる、というワンストップのしくみを整備したい。</p> <p>既存の相談体制が十分活用されるようにするための方策を急いで考えていただきたい。</p> <p>特に若い世代では、新聞購読しない世帯も多く、広報を駅で手に取る人は少ない。転入届、妊娠届、出生届、などを受理する際に、ワンストップ相談窓口の存在を示すなどすれば、今よりは、周知が進む可能性はある。必要な情報が必要になる前から提示されているようにしておくことが、ホスピタリティーではないか考える。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>わかりやすい相談窓口の整備は、全部局の共通課題であると認識しております。いただいたご意見は庁内関係各課に共有し、区民の皆様にとって、わかりやすい相談窓口の確立に向け、全庁で取り組んでまいります。</p>
P.77	このグラフも、不明・無回答が濃い色である必要はない。以下のページも同様。	ご指摘いただいた内容を踏まえ、報告書全体において、円グラフの色分けについては、統一した順に色分けをさせていただきます。加えて、その他特出すべき箇所については、視覚的に分かりやすいよう見せ方を工夫させていただきます。

頁数	ご意見・ご質問	回答
P.78	<p>これほどさまざまな相談窓口を作っても、相談したことがないという事実は、問題を抱えた人が少ないと解釈するのは79ページを見れば間違いであることは明らかだ。相談できるところがあるなら相談したいという人が大半であるのに、相談しない、相談しなかった事実の原因を考えたい。ここでも分業、細分化の弊害がうかがわれる。実際に稼働するチームは分業されている必要があるだろうが、相談窓口はあちこち調べる必要もないワンストップであることが求められている。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 より複雑な課題を抱えている方が増えており、専門的な相談体制、および事業の細分化は必要であると考えております。 豊島区では、いわゆる縦割りといわれる弊害を取り除くため、重層的支援体制の整備を進めているところです。区民の皆様にとって、よりわかりやすい相談窓口となるよう、今後とも取り組んでまいります。</p>
P.91	<p>このグラフをもとに、新計画が策定されると、区民にとって画期的な前進になると思われる。何といたっても、気軽に相談できる相談体制の充実であるが、時間を選ばず、足を運ばずに相談できるオンライン相談や24時間電話相談など、子ども・若者が利用しやすい方法を展開してもらいたい。 今回の調査で新たに項目に入れた「子ども・若者の貧困対策の充実」が2位に上がっている重大な事実をいかに深刻に受け止め、具体的に迅速に対応できるかに行政の真価が問われているように思う。誰一人取り残さないSDGsの精神を尊ぶなら、ダイナミックな施策とその計画策定が行われなければならない。このページは、拡大版にしてもよいと思う。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 本調査の結果を真摯に受け止め、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
P.96	<p>子ども・子育てに関するご意見で、共通しているのは、サポートを受ける手順の煩雑さである。母子手帳発行段階で、ワンストップ相談窓口を提示できるよう即刻、改善に努めていただきたい。 かなり厳しい具体的なご意見があるので、この世代の人たちの多くの声を拾うための場や機会を設ける必要があると思う。乳幼児を自宅でみながら、オンラインで参加できるようなイベントや、WEB掲示板を作り、投稿してもらうようにするなど考えたい。 また、明石市のような先進例に学ぶことも積極的に考えてほしい。若い世代の区民は他の自治体での動きを敏感に察知しているので、是非、一緒に安心して子育てしやすいまちづくりに向けてアクションを起こしてもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。 いただいたご意見は、庁内関係課と共有させていただきます。 また、次年度開催するワークショップでは、若い世代の方にも積極的に参加を呼びかけ、さらなるニーズの把握に努めます。</p>